

* 2015年11月改訂（第4版）
* 2014年12月改訂（第3版）

アレルギー性疾患治療剤

日本標準商品分類番号
8 7 4 4 9

* 貯 法：室温保存、密閉容器
使用期限：外箱に表示の使用期限
内に使用すること
注 意：取扱い上の注意の項参照

* 日本薬局方 オロパタジン塩酸塩錠

オロパタジン塩酸塩錠2.5mg「マヤ」 オロパタジン塩酸塩錠5mg「マヤ」

Olopatadine Hydrochloride Tablets 2.5mg
Olopatadine Hydrochloride Tablets 5mg

	錠2.5mg	錠5mg
承認番号	22400AMX 01359000	22400AMX 01360000
薬価収載	2012年12月	
販売開始	2012年12月	
* 効能追加	2014年11月	

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【組成・性状】

1. 組成

オロパタジン塩酸塩錠2.5mg「マヤ」

1錠中、日本薬局方 オロパタジン塩酸塩2.5mgを含有する。
添加物として、乳糖水和物、セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、デンプングリコール酸ナトリウム、無水ケイ酸、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、酸化チタン、三酸化鉄、カルナウバロウを含有する。

オロパタジン塩酸塩錠5mg「マヤ」

1錠中、日本薬局方 オロパタジン塩酸塩5mgを含有する。
添加物として、乳糖水和物、セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、デンプングリコール酸ナトリウム、無水ケイ酸、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、酸化チタン、三酸化鉄、カルナウバロウを含有する。

2. 性状

オロパタジン塩酸塩錠2.5mg「マヤ」

淡黄赤色のフィルムコーティング錠である。

オロパタジン塩酸塩錠5mg「マヤ」

淡黄赤色の片面割線入りフィルムコーティング錠である。

	外 形			直径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (mg)	識別 コード (PTP)
	表	裏	側面				
オロパタジン塩酸塩錠2.5mg「マヤ」				約6.1	約3.2	100	MR 44A
オロパタジン塩酸塩錠5mg「マヤ」				約7.1	約3.1	125	MR 44B

【効能・効果】

成人：アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患に伴う瘙痒（湿疹・皮膚炎、痒疹、皮膚掻痒症、尋常性乾癬、多形滲出性紅斑）

* 小児：アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患（湿疹・皮膚炎、皮膚掻痒症）に伴う瘙痒

【用法・用量】

* 成人：通常、成人には1回オロパタジン塩酸塩として5mgを朝及び就寝前の1日2回経口投与する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。
* 小児：通常、7歳以上の小児には1回オロパタジン塩酸塩として5mgを朝及び就寝前の1日2回経口投与する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1)腎機能低下患者
[高い血中濃度が持続するおそれがある。]
- (2)高齢者（「高齢者への投与」の項参照）
- (3)肝機能障害のある患者
[肝機能障害が悪化するおそれがある。]

2. 重要な基本的注意

- (1)眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作には従事させないよう十分注意すること。

(2)長期ステロイド療法を受けている患者で、本剤投与によりステロイド減量を図る場合には十分な管理下で徐々に行うこと。

(3)本剤を季節性の患者に投与する場合は、好発季節を考慮して、その直前から投与を開始し、好発季節終了時まで続けることが望ましい。

(4)本剤の使用により効果が認められない場合には、漫然と長期にわたり投与しないように注意すること。

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1)重大な副作用

劇症肝炎、肝機能障害、黄疸（いずれも頻度不明）

劇症肝炎、AST（GOT）、ALT（GPT）、γ-GTP、LDH、Al-Pの上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2)その他の副作用

下記のような副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には減量・休薬等の適切な処置を行うこと。

	頻 度 不 明
過 敏 症 ^(注)	紅斑等の発疹、浮腫（顔面・四肢等）、痒疹、呼吸困難
* 精神神経系	眠気、倦怠感、口渇、頭痛・頭重感、めまい、集中力低下、しびれ感、不随意運動（顔面・四肢等）
* 消化器	腹部不快感、腹痛、嘔気、下痢、便秘、口内炎・口角炎・舌痛、胸やけ、食欲亢進、嘔吐
肝 臓	肝機能異常〔AST(GOT)、ALT(GPT)、γ-GTP、LDH、Al-P、総ビリルビン上昇〕
* 血 液	白血球増多、好酸球増多、リンパ球減少、白血球減少、血小板減少
* 腎臓・泌尿器	尿潜血、BUN上昇、尿蛋白陽性、血中クレアチニン上昇、頻尿、排尿困難
循 環 器	動悸、血圧上昇
そ の 他	血清コレステロール上昇、尿糖陽性、胸部不快感、味覚異常、体重増加、ほてり、月経異常、筋肉痛、関節痛

注)このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。

4. 高齢者への投与

高齢者では生理機能が低下していることが多く、副作用が発現しやすいので、低用量から投与を開始するなど患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。

5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。
[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]

(2)授乳中の婦人に投与することを避け、やむを得ず投与する場合には授乳を中止させること。
[動物実験（ラット）で乳汁中への移行及び出生児の体重増加抑制が報告されている。]

6. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児に対する安全性は確立していない(使用経験が少ない)。

7. 臨床検査結果に及ぼす影響

本剤の投与は、アレルゲン皮内反応を抑制し、アレルゲンの確認に支障を来すので、アレルゲン皮内反応検査を実施する前は本剤を投与しないこと。

8. 適用上の注意

(1) 薬剤交付時

P T P 包装の薬剤はP T Pシートから取り出して服用するよう指導すること。(P T Pシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている)

(2) 薬剤分割時

分割したときは遮光下に保存すること。

9. その他の注意

因果関係は明らかではないが、本剤投与中に心筋梗塞の発症がみられた症例が報告されている。

【薬物動態】

オロパタジン塩酸塩錠2.5mg「マヤ」

(1) 生物学的同等性試験

オロパタジン塩酸塩錠2.5mg「マヤ」は「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン(平成18年11月24日 薬食審査発第1124004号)」に基づき、オロパタジン塩酸塩錠5mg「マヤ」を標準製剤としたとき、溶出挙動が等しく、生物学的に同等とみなされた。¹⁾

* (2) 溶出挙動

オロパタジン塩酸塩錠2.5mg「マヤ」は、日本薬局方医薬品各条に定められたオロパタジン塩酸塩錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

オロパタジン塩酸塩錠5mg「マヤ」

(1) 生物学的同等性試験

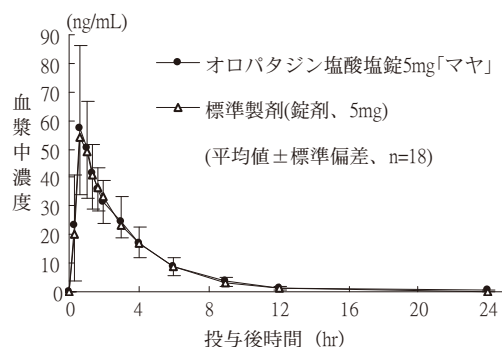
オロパタジン塩酸塩錠5mg「マヤ」と標準製剤をクロスオーバー法によりそれぞれ1錠(オロパタジン塩酸塩として5mg)、健康成人男子18名に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定した。得られた薬物動態パラメータ(AUC、C_{max})について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。²⁾

* (2) 溶出挙動

オロパタジン塩酸塩錠5mg「マヤ」は、日本薬局方医薬品各条に定められたオロパタジン塩酸塩錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC ₀₋₂₄ (ng・hr/mL)	C _{max} (ng/mL)	T _{max} (hr)	t _{1/2} (hr)
オロパタジン塩酸塩錠5mg「マヤ」	185.5±33.2	65.20±18.73	1.1±0.8	3.1±0.3
標準製剤 (錠剤、5mg)	181.7±29.7	59.63±13.29	1.1±0.8	3.0±0.2

(平均値±標準偏差、n=18)



血漿中濃度並びにAUC、C_{max}等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

*【薬効薬理】

オロパタジン塩酸塩は、ヒスタミンH₁受容体拮抗作用を主体とし、ケミカルメディエーター(ロイコトリエン、トロンボキサン、PAF等)の産生・遊離抑制作用を現す。更に、神経伝達物質タキキニン遊離抑制作用も有する。³⁾

【有効成分に関する理化学的知見】

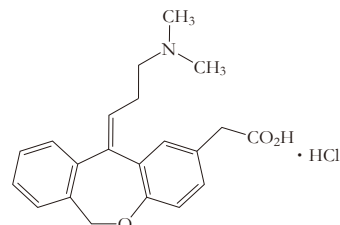
一般名：オロパタジン塩酸塩(Olopatadine Hydrochloride)

* 化学名：{11-[(1Z)-3-(Dimethylamino)propylidene]-6,11-dihydrodibenzo[*b,e*]oxepin-2-yl}acetic acid monohydrochloride

分子式：C₂₁H₂₃NO₃・HCl

分子量：373.87

* 構造式：



* 性状：白色の結晶又は結晶性の粉末である。ギ酸に極めて溶けやすく、水にやや溶けにくく、エタノール(99.5)に極めて溶けにくい。0.01mol/L塩酸試液に溶ける。1.0gを水100mLに溶かした液のpHは2.3~3.3である。

融点：約250℃(分解)

【取扱い上の注意】

オロパタジン塩酸塩錠2.5mg「マヤ」

安定性試験

最終包装製品を用いた加速試験(40℃、相対湿度75%、6ヶ月)の結果、オロパタジン塩酸塩錠2.5mg「マヤ」は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。⁴⁾

オロパタジン塩酸塩錠5mg「マヤ」

安定性試験

最終包装製品を用いた加速試験(40℃、相対湿度75%、6ヶ月)の結果、オロパタジン塩酸塩錠5mg「マヤ」は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。⁵⁾

【包装】

オロパタジン塩酸塩錠2.5mg「マヤ」

P T P：100錠

オロパタジン塩酸塩錠5mg「マヤ」

P T P：100錠、500錠

【主要文献】

- 1) 摩耶堂製薬(株)社内資料:生物学的同等性試験2.5mg
- 2) 摩耶堂製薬(株)社内資料:生物学的同等性試験5mg
- * 3) 第一六改正日本薬局方第二追補解説書C-53(2014)
- 4) 摩耶堂製薬(株)社内資料:安定性試験2.5mg
- 5) 摩耶堂製薬(株)社内資料:安定性試験5mg

【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

摩耶堂製薬株式会社 医薬部

〒651-2142 神戸市西区二ツ屋1-2-15

TEL 078-929-0066 FAX 078-929-1180

製造販売元



摩耶堂製薬株式会社
神戸市西区玉津町居住65-1